

令和7年度学校評価表

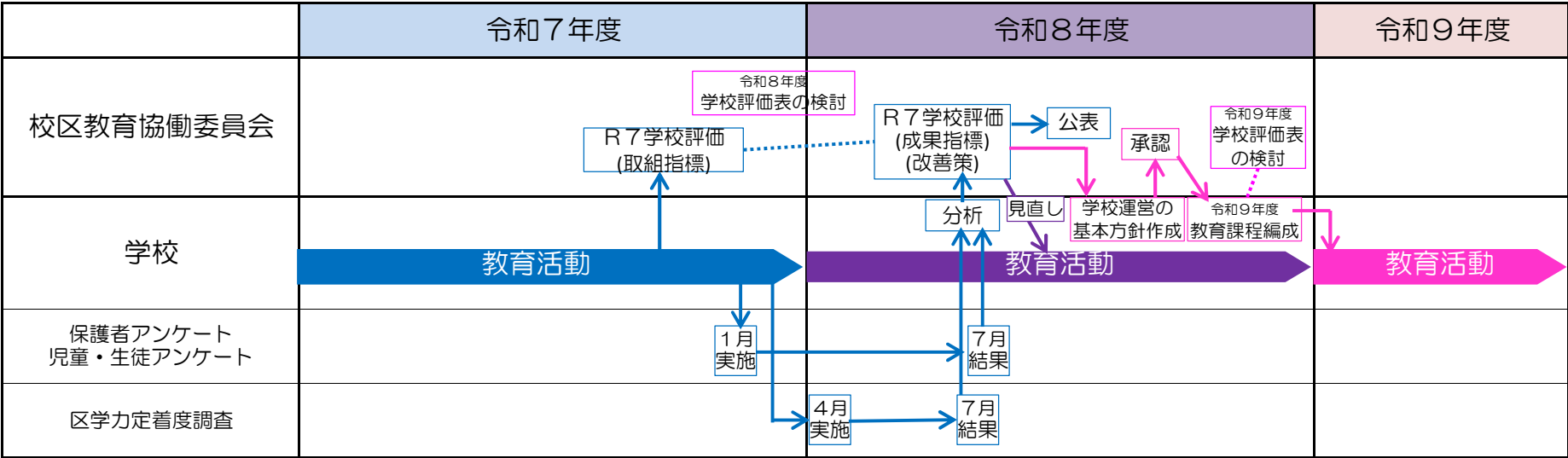
品川区立八潮学園	校長	夏井 真一
八潮学園校区教育協働委員会	委員長	鞍馬 裕美

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和5年3月24日 教育長決定 要綱第5号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和7年度の学校評価が令和8年度および令和9年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



評価項目1 学力に関すること

重点目標				
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	学習規律(チャイム着席、あいさつ、学習準備、ノートの取り方、発表の仕方、学習態度・姿勢、忘れ物防止など)に関して、基本的な学習規律が身に付いている。	継続的な指導により、チャイム着席やあいさつ、学習準備などの基本的な学習規律が定着してきた。落ち着いて授業に取り組む姿勢が見られ、学習環境の向上につながった。	B	基本的な学習規律は定着しているが、児童・生徒によって意識や実践に差が見られるため、今後も発達段階や実態に応じた継続的な指導を行う必要がある。家庭との連携を一層深めながら、主体的に学習に取り組む態度の育成を図り、より質の高い学習環境づくりを推進していく。
	学習規律についての児童・生徒の心得をHP上で周知徹底し、学期ごとに学級集団の状況を振り返り、二者、三者面談で家庭とも連携する。	日頃から、基本的な学習規律の定着に向けて、継続的に指導を行っている。特に、毎日の提出物や忘れ物については、その都度指導を行っている。また、保護者面談、学年だよりなどを通して、保護者への協力を呼び掛けている。	B	
	教師は学習規律の定着を常に意識し、発達段階や児童・生徒の実態に応じた適切な指導を行う。	教員が共通理解のもとで継続的な指導を行ったことで、児童・生徒の発達段階や実態に応じた学習規律の定着が進んだ。落ち着いた学習環境が整い、主体的に学習に取り組む姿勢の向上が見られた。	B	
②	区学力定着度調査の結果が昨年度より向上しているか。また、各学年・各教科ともに都平均値を上回ることができているか。	前期課程は、全教科において都平均を上回らなかったが、昨年度よりも各教科のスコアは向上している。後期課程は、理科、社会が都平均を下回ったが、数学、英語は全学年で上回った。	B	前期、後期ともに、各教科の学習達成状況や課題を整理して、指導方法の工夫や改善点を見付けて、年間の学習指導計画を見直し、学習指導内容の精選を行っていく。また、1人1台端末を積極的かつ効果的に活用し、児童・生徒の興味・関心を引き出すため、各学年で指導法や教材を共有していく。また、本校のDX推進部会を中心にICT機器の有効的活用に関する研鑽を積み、児童・生徒の主体的な学びにつながる授業運営を目指していく。
	区学力調査結果を分析し課題を明確にする。それに基づき、各学年・各教科で改善策を具体化し実践している。	区学力定着度調査、全国学力学習状況調査の結果を踏まえ、学年会で実態を共有した。児童・生徒の実態を意識した学習指導を計画・実施している。	B	
	教師はICT機器を積極的に活用し、児童・生徒が主体的に意欲的に学習できるよう指導方法を工夫している。	ICT機器を積極的に活用した授業改善を進めたことで、児童・生徒が主体的に学習に取り組む場面が増えた。視覚的に分かりやすい教材の提示や意見共有等を通して学習意欲や理解が深まった。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標				
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	学校全体で人権教育に計画的に取り組み、自他を認める環境作りを行う。	人権教育を計画的に実施したことで、自他を尊重する態度が育まれた。あいさつや規範意識の向上も見られ、互いを認め合う温かい学校風土の醸成につながった。	A	多様な価値観を理解し尊重する態度をさらに育成するため、人権教育や市民科学習の充実を図る。児童・生徒が主体的に関わる活動を増やし、実践力を高める。 家庭・地域との連携をさらに深め、児童・生徒が地域の一員として主体的に活動できる機会を充実させる。活動内容の発信方法も工夫し、参加率向上を目指す。
	学年の発達段階に合わせた指導内容を工夫して継続的に共通指導を行う。特に、人権週間については、系統的に学ぶことができるよう工夫して各学年の指導を行う。	発達段階に応じた計画的な指導を継続して行ったことで、人権に対する理解や他者を思いやる心が育まれた。特に、人権週間では各学年の実態に応じた学習を実施し、自他を尊重する意識の向上につながった。目標を十分に達成することができた。	B	
	規則や約束を守ることの重要性を細かく理解させる「規範意識」の向上や「自らあいさつをする習慣」を身に付けさせる。自らあいさつする風土を醸成するために、教職員、児童生徒等で取り組んでいる。	教職員と児童・生徒があいさつ運動に継続的に取り組んだことで、自ら進んであいさつをする姿が多く見られるようになった。また、学校生活の様々な場面で規則や約束を守ることの大切さについて指導を行った結果、規範意識の向上が見られ、互いを尊重し合う望ましい学校風土の醸成につながった。目標を十分に達成することができた。	B	
②	区保護者アンケート「コミュニティスクールの取組は良い」の肯定的評価の割合を高める。	地域行事やコミュニティ・スクールの取組への参加を通して、地域とのつながりや社会参画意識が高まった。保護者や地域との協働活動も充実し、学校への理解と信頼の向上につながった。	A	今後も地域行事やコミュニティ・スクールの取組について積極的に周知し、児童・生徒、保護者、地域住民の参加をさらに促進していく。学校・家庭・地域が協働して課題解決に取り組む機会を充実させ、地域とともにある学校づくりを一層推進していく。
	連合自治会、青少年対策など、八潮学園地域の行事への参加を促すため、広報・啓発活動を工夫している。	青少年対策八潮地区委員会主催の「元気いっぱい！夏休みラジオ体操」のお知らせを出して、児童・生徒の多くの参加を呼びかけている。また、恒例となっている「八潮まつり」にも多くの児童・生徒の参加を募っている。	A	
	SDGsに関連して、児童生徒会を中心に、地域自治活動に取り組み、地域、保護者を巻き込んでいる。	「八潮美化運動」「品川コミュニティ・スクール DAY」では、『みんなが安心安全に通える学校づくり(防災、交通安全、学校生活)』というテーマで児童生徒会と地域、保護者の方で熟議をおこない、SDGsに関する取組をした。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標				
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	給食の時間を中心として、食事の重要性、食事の喜びを育む指導に取り組んでいる。	給食指導や食育活動を通して、食事の大切さや感謝の気持ちを育むことができた。給食の準備や片付けも安全かつ円滑に行われ、望ましい食習慣の形成につながった。	A	給食の時間や教科や家庭との連携を通して、食育をさらに推進し、健康的な生活習慣の定着を図る。また、児童・生徒が主体的に食について考える機会も増やしていく。
	給食のきまりを覚えて準備や片付けを安全に行っている。また、食器の並べ方、箸の持ち方などに気を使って、生産者や調理をする人に感謝の念を持ち給食の時間を過ごしている。	給食指導を継続的行ったことで、児童生徒は給食のきまりを理解し、安全に準備や片付けを行うことができた。また、正しい食器の配置や箸の使い方を意識するとともに、生産者や調理に携わる方々への感謝の気持ちをもち、望ましい態度で給食時間を過ごすことができた。目標を十分に達成することができた。	A	
②	健康安全に関する行事において、児童の発達段階に応じた事前指導を行い、個人情報保護の観点で適切な事後指導を行っている。	保健指導や健康安全教育を計画的に実施し、健康管理や安全行動への意識向上が見られた。感染症予防や事故防止についても継続的に指導し、安全な学校生活を維持することができた。	A	児童・生徒の発達段階に応じた健康教育を継続するとともに、自ら健康を管理する力の育成を図る。関係機関と連携しながら安全教育の充実を進める。
	保健学習や市民科学学習等において、学級担任と養護教諭が連携して個人差を踏まえた指導を行い、学年の発達段階に応じた健康教育を進めている。 学校環境を整えて、日常生活での感染症予防や事故防止に努め、安定した学習活動を行っている。	学級担任と養護教諭が連携し、発達段階や個人差に応じた健康教育を推進したことで、児童生徒の健康に対する意識が高まった。また、感染症予防や事故防止に向けた取組を継続したことで、安全で安心な学校環境を維持し、安定した教育活動を実施することができた。学校保健委員会では、保健委員会の生徒が主体となって、自校の取組や健康課題についてまとめた内容を発表した。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標				
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	「どんな理由があってもいじめは許されない」と考える児童生徒を100%にする。	いじめは決して許されないという意識の定着に向けた取組を継続し、児童・生徒の人権意識の向上が見られた。アンケートや日常的な見取りを通して早期発見・早期対応を図り、安心して学校生活を送ることができる環境づくりを推進した。	B	いじめの未然防止や早期発見・早期対応に向けた取組は定着しているが、児童・生徒を取り巻く環境の変化やSNS等によるトラブルへの対応をさらに充実させる必要がある。今後もアンケートや日常的な見取りを通して児童・生徒理解に努めるとともに、人権意識や情報モラルの向上を図り、いじめを許さない風土づくりを推進していく。また、学校だけでなく家庭においても児童生徒との対話や見守りを継続し、地域においても児童・生徒を温かく見守る体制づくりを進めることで、家庭・地域・関係機関との連携を一層深め、誰もが安心して学校生活を送ることのできる環境づくりに努めていく。
	「いじめ防止対策推進法」に基づき対処し、週1回の情報交換のためのブロック連絡会を行い、情報共有を図り、組織的な対応をしている。	生活指導連絡会を週1回開催し、児童・生徒一人一人の状況をきめ細かく把握し、生活指導主任を中心に適切な指導方法を考えた上で、児童・生徒へアプローチを行っている。	A	
	品川教育の日、校区教育協働委員会、地域健全育成運営協議会等を通して、PTAや、地域、関係諸機関と連携を深め、いじめ防止に取り組んでいる。	本校区教育協働委員会をはじめとして、地域との連携を密接にして、いじめ防止については情報共有のみならず、適切な改善策を打ち出している。特に、品川教育の日では、校区教育協働委員と教職員がいじめ防止の取組などについて話し合うことができた。また、必要に応じて、PTAへも周知し、地域全体で本学園の児童・生徒の有意義な学校生活を保障するために協働している。	A	
	いじめDアンケート等の結果の分析に基づき、児童生徒一人一人を観察して個人的な指導、いじめが起こりにくい集団づくりに取り組んでいる。	日々のデイクン、年3回のいじめDアンケートを通して、児童・生徒一人一人の状況を細かく把握している。人権感覚、人権を守った行動がいじめ防止につながることを意識するように指導を継続している。また、タブレット使用に関わるマナーや使い方等の情報モラルやリテラシーについても繰り返し指導している。	B	
	アンケート等で学校生活に課題を抱えていると答えた児童生徒に対し、その理由を聞き取りながらていねいに寄り添った支援をしている。	アンケート結果を基に、複数の教員で児童・生徒の声を聴く機会を増やして不安や相談に早期に対応できるようにしている。児童・生徒の様子を学年・学校全体で見えていき、支援する意識をこれからも継続する。	B	
	異学年でのお世話活動を通して、校内での居場所づくりや絆づくりを進め、自己有用感を高めるために取り組んでいる。	2か月に1回の「たてわり班活動」とおして、異学年交流活動を行っている。また、学校行事でも異学年交流を意図的に実施し、自己有用感を高める取組をしている。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5（特色ある教育活動に関すること）

重点目標				
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	防災教育の区の重点校として、地域や関係機関との連携を通し、「生きる力」を育む。 (前期課程) 日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、他の人々の安全にも気配りできる児童を育成する。 (後期課程) 日常の備えや的確な判断のもと主体的に行動するとともに、地域の防災活動や災害時の助け合いの大切さを理解し、すすんで活動できる生徒を育成する。	防災教育重点校として、地域や八潮防災協議会、品川区防災課、しながわ福祉と連携した取組を実施し、児童・生徒の防災意識と実践力の向上が図られた。災害時に自ら判断し行動する力や、他者と協力する態度が育成された。	A	防災教育重点校としての取組により、児童・生徒の防災意識や実践力、地域とのつながりは着実に向上している。今後は、地域や関係機関、家庭との連携をさらに深め、より実践的な防災訓練や体験活動を充実させることで、災害時に主体的に判断し行動できる力を育成していく。また、自助・共助の意識を一層高め、地域の一員として防災活動に積極的に参画できる児童・生徒の育成を目指す。
	学校で指導していることを家庭や地域に知らせ、学校防災教育との密接な関連を図る。 家庭や地域で実践的家庭や地域の一員としての自覚を育みながら、災害に適切に対応する能力を育成する。	学校防災教育の取組を学校だよりや防災訓練等を通して家庭・地域へ積極的に発信し、連携を深めることができた。家庭や地域と協力した防災活動を通して、児童・生徒の防災意識が高まり、地域の一員として災害時に適切に行動しようとする態度や実践力の向上が見られた。目標を十分に達成することができた。	A	
	学校の防災施設・設備の児童生徒等と一緒に確認作業を行い防災意識を高める。地域行事へ児童生徒等が参加するなど、「開かれた学校づくり」に努め、非常時の場合も地域との絆を活かせるような基盤づくりを進める。	学校の防災施設・設備の確認活動を児童生徒とともに行うことで、防災に対する関心と意識を高めることができた。また、地域行事への参加や地域との交流活動を通して、地域の一員としての自覚を育むとともに、学校と地域の連携を深めることができた。非常時においても互いに支え合える関係づくりが進み、地域との絆を基盤とした防災意識の向上につながった。目標を十分に達成することができた。	A	
②	品川コミュニティ・スクールの機能を十分に生かした授業づくりを推進する。	ゲストティーチャー招聘や家庭科の学習ボランティア等、教育課程の様々な場所で、コミュニティ・スクールの機能を生かした授業づくりを推進している。	A	今後も学校地域コーディネーターや地域人材、関係機関との連携をさらに強化させ、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を推進していく。体験的な学習や交流活動の機会を継続的に確保するとともに、多様性理解やものづくり教育などを通して、児童・生徒の主体性や社会性、協働する力のさらなる育成を図る。
	学校地域コーディネーターと連携し、授業に外部の人材を積極的に活用している。	学校地域コーディネーターを中心として、品川未来塾や本校の特色ある教育活動において、日程調整や人員の確保に努めている。	B	
	品川多様性理解・多文化共生推進事業の重点校として、車いすマラソンの元パラリャンの体験授業、デフサッカー体験、明清学園との交流などを通して、お互いを認め合い尊重することは、障害の有無で人を決めつけるのではなく、多様な人々と共生できる児童生徒の育成を目指す。	品川多様性理解・多文化共生推進事業の重点校として、車いすマラソン元パラリンピアンによる体験授業やデフサッカー体験、明清学園との交流活動を実施した。児童・生徒は、多様な人々との関わりを通して、障害の有無にかかわらず互いを認め合い尊重することの大切さを学んだ。体験的な学習により、多様性への理解と共生社会の実現に向けた意識が高まり、目標を十分に達成することができた。	A	
	東京都立産業技術高専や五反田バレーと連携し発達段階にあったものづくりの実施に向けて調整を進めている。	学年の担当、学校地域コーディネーターと連携し、準備物の用意、日程調整、学習計画などを連携して進めることができた。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成